

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
第6学年				第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		
学年	第6学年			学年	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	0	-1	-2	令和8年度の目標	-8	-8	-3	-4	-2	0	-6	-5
令和7年度の結果	-1	-1.6	-2.6	令和7年度の結果	-10.3	-10.6	-3.2	-4.5	-2.9	-0.5	-6.5	-5.2
令和6年度の結果	+2.4	+0.1	+2.5	令和6年度の結果	-6.8	-2.8	+3.3	+6.9	-5.5	-7.0	-1.3	-1.9
令和5年度の結果	-0.4	-0.6	-1.0	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度							
内容	令和7年度 成果と課題			目標				目標達成に向けた取組			
学校全体	<p>【成果】 ○「全国学力・学習状況調査」の分析を6年担任だけでなく校内研修で取り組むなど、学校全体で取り組み、見直しをもって指導することを意識することができた。 ○習熟度に応じた学習内容や学習進度で授業を行うことで、各層の児童力をそれぞれ伸ばすことができた。 【課題】 ○江戸川区学力調査では、3～6年すべての学年が全国平均正答率を下回る結果となった。特に3年生の差は-10と大きく下回ることから、低学年から学習がしっかりと身につけていないことがわかる。</p>			<p>○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○国語では、児童が文章を読んで、書かれている内容を正しく読みとったり、要約したりする力を高めるとともに、根拠を踏まえて自分の考えを文章で表現することができるようにする。 ○算数では、各学年に応じた基礎・基本を身に付ける。</p>				<p>○校内外の公開授業や研修に積極的に参加し、校内で共有を行い、指導力向上に努める。 ○読書の推進や日記やよむYOMUワークシートの活用など、日常で取り組み、読み書きの定着を図る。 ○算数科では系統性を共通理解し、見直しをもちながら該当学年の基礎基本が定着できるように指導する。 ○習熟度学習や放課後補充教室を活用する。</p>			
第1学年	<p>【成果】 ○ひらがな、カタカナ、漢字の反復練習を行ったり、文章で書いたりすることを継続した。 ○自分の考えを話したり友達の見解を聞いて話し、考えを深めることができた。 ○算数では、繰り上がりの足し算や繰り下りの引き算について、反復練習や家庭学習で取り組ませることで確実にできる児童が増え、計算の定着が見られた。 【課題】 ○文章を書く際、表記する文字が分からない児童が多く見られた。(単語、助詞等) ○「書」ことの学習においては、知っている語彙が少なく、自分の思いや登場人物の気持ちを適切な言葉で表現することに難しさが見られた。 ○算数の計算では、10をまとまりとすることが定着してきている一方で、数の分解・構成の意味を理解できない児童も多く見られた。</p>			<p>○考えを伝える語彙を知り、増やす。 ○言葉を書く際や漢字を書く際、意味を考えながら学習を行った。 ○「繰り上がりのあるたし算・引き算」などの基礎基本の計算ができるよう確実な定着を図る。 ○文章問題を正しく読み取り、式に表すことができるようにする。</p>				<p>○物語文の中で、登場人物の行動や気持ちを表す言葉に注目させて学習する。 ○家庭学習で継続的な反復練習を行う。 ○立式に必要な言葉に着目し、アレイ図やテープ図を書いて計算を行う。</p>			
第2学年	<p>【成果】 ○自分の考えを理由とともに、話したり、友達の見解を聞いて考えを深めることができた。 ○算数では、九九や繰り上がりの足し算や引き算について、反復練習や家庭学習で取り組ませることで確実にできる児童が増え、計算の定着が見られた。 【課題】 ○「書」ことの学習においては、言葉の語彙が少なく、自分の思いや登場人物の気持ちを適切な言葉で表現することに難しさが見られた。 ○算数では、文章問題の内容を正しく読み取り、式に表すことができない児童が見られた。 ○九九・繰り上がりのある足し算引き算については、継続して習熟をしない計算方法を忘れてしまう児童が多かった。</p>			<p>○自分の考えを伝えるための語彙を増やす。 ○「九九」「繰り上がりのある足し算・引き算」などの基礎基本の計算ができるように確実な定着を図る。 ○文章問題の内容を正しく読み取り、式に表すことができるようにする。</p>				<p>○物語文や日記の学習の中で、気持ちや様子を表す言葉に注目させて学習する。 ○朝学習や家庭学習で継続的な反復練習を行う。 ○図やテープ図、絵などを使い場面を視覚的に整理して、自分が立式するために理解しやすい方法を一緒に考える。</p>			
第3学年	<p>【成果】 ○読書の学習では、図語辞典を使って言葉の意味や単語で覚えるようにし、漢字の定着ができるようにした。また、漢字テストでは再テストをして繰り返し取り組みさせた。 ○算数では、本時の学習の前の学習の復習時間を設けたり、前後の学習の様子から復習問題を考えたりして、繰り出すことや順に応じた問題から基礎・基本の定着を図った。 【課題】 ○「話すこと・聞くこと」以外の「知識・技能」「思考・判断・表現」「書くこと」「言葉・情報・芸術文化」「読むこと」の全国平均の差は-8から-13と大きい。記述式の回答の無回答が目立ち、問題文を読むと、次に聞かれていることを理解すること、最後に自分の考えを文章に書くことができない。 ○3位数÷2位数、4位数÷1位数の繰り上がりのある筆算、あまりのあるわり算など、基本の計算ができていない。また「式による表現」ができていないことから立式も難しいことがわかる。</p>			<p>○物語文では文章の細部や流れを読み取る、説明文では段落の関係や文章の内容を理解するなど、文章を読む力をつける。 ○考えを文章にしたり、答えだけでなく考えた理由を書いたりして書く力をつける。 ○「たし算・ひき算・かけ算の筆算」や「あまりのなし・ありのわり算」など、基礎・基本の計算ができるようにする。 ○文章を読み、立式できるようにする。</p>				<p>・物語文の細部や流れを読み取る力を高めるため、段落ごとに問いを設定し、叙述をもとに線を引き考えて活動の継続的に行う。 ・説明文の段落関係や内容理解を深めるため、接続語やキーワードに着目させ、要点を短くまとめる練習を取り入れる。 ・自分の考えと理由を書く力を伸ばすため、「答え・理由・まとめ」の型を示し、短い文章を書く練習を繰り返す。 ・かけ算の筆算やあまりのあるわり算の基礎を定着させるため、毎時間のはじめに計算タイムを設け、反復練習を行う。 ・文章題を読み取り立式する力を養うため、問題文の大事な数値や言葉に印を付けさせ、式に表すまでの手順を確認しながら解く活動を行う。</p>			
第4学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査 国語において、全国平均に昨年より3.6ポイント迫ることができた。漢字読み書きの定着を図るため、再テストを繰り返してきたことで、「知識・技能」は、全国平均と同程度であった。 【課題】 ○江戸川区学力調査 国語において、「思考・判断・表現」の観点で全国平均を5.3ポイント下回っており、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域を苦手としている。 ○江戸川区学力調査 算数において「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国平均を下回っている。特に「角」「重さ」「分数」「数」の単元は、全国平均を大きく下回っており、定着が不十分であり、単元毎に定着度の差が大きい。</p>			<p>○国語において「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「読むこと」の領域の正答率を高める。 ○算数において、単元毎の定着度の差を少なくする。</p>				<p>○国語だけでなく他教科でも「話す・聞く」「書く」「読む」活動を意識的に取り入れ、「思考・判断・表現」の力を高める。特に「聞く」「読む」といったインプットする活動を重点的に指導し、発問や文章の内容を正確に読み取ることができるようになる。 ○学力定着度調査問題や学習カルテを活用し、苦手とする単元の復習を日常的に行うようにする。</p>			
第5学年	<p>【成果】 ○分数や小数の計算など基礎的な計算問題においては、概ね高い正答率が見られ、基本的な計算技能の定着がうかがえる。 ○物語文や説明文を読む問題において、内容を捉える段階では一定の正答率が見られ、文章の大きな内容を理解する力が身につけている。 【課題】 ○理由や考えを説明する記述式の問題では、正答率が低く、数学的な見方考え方を言葉や式を用いて表現する力に課題が見られる。 ○複数の情報を関連付けて読み取る問題や、活用問題において平均を下回る傾向が見られ、文章全体の関係性を捉えて考える読解力の育成が必要である。</p>			<p>○国語において、語句や漢字など基礎的な言語事項の定着を図るとともに、文章の内容を根拠にして自分の考えを説明する表現力を向上させる。 ○算数において、基礎的な計算技能の定着を継続するとともに、数学的な表現力の向上を図る。</p>				<p>○国語において、文章を読む際に、根拠となる叙述に線を引き出したり抜き出したりする活動を取り入れ、文章を根拠にして考える学習を積み重ねる。 ○算数において、式や言葉を用いて自分の考えを説明する活動を授業に多く取り入れる。</p>			
第6学年	<p>【成果】 ○国語では、文章の内容を読み取り、問われていることに応じて答える力が一定水準身に付いてきており、東京都平均との差が小さい状態にある。 ○算数では、基礎的な算術事項を扱っている問題において、繰り出しの学習により一定の定着が見られた。 ○学年を体して、全国学力・学習状況調査に向けて、既習内容の復習や関連学習を継続して取り組むことができた。 【課題】 ○国語では、文章全体を踏まえて自分の考えをまとめるため、理由を明確にして記述したりする力に課題が見られる。 ○算数では、条件を整理して立式したり、求め方や考え方を言葉や式で説明したりする問題に課題が見られる。 ○国語・算数ともに、正答率を高めるための根拠を明確にして自分の考えをまとめることに取り組む必要がある。</p>			<p>○国語において、文章の内容を正確に読み取り、根拠をもとに自分の考えを記述できるようにする。 ○算数において、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、問題場面を整理して立式し、自分の考えを説明できるようにする。 ○全国学力・学習状況調査における平均正答率東京都との差について、国語0、算数1、合計-2を目指す。</p>				<p>○国語では、文章中の叙述や資料を根拠にして考えを書く活動を継続的に取り入れ、記述問題に慣れさせる。 ○要旨を捉える学習や、問いに対して「答え・理由・まとめ」の形で書く指導を積み重ね、書く力を高める。 ○算数では、既習事項の復習や計算練習を継続的にを行い、基礎・基本の確実な定着を図る。 ○文章題では、図や表、線分図などを用いて条件を整理し、立式の根拠を明確にしながら解く活動を取り入れる。 ○国語の中で、自分の考えを式・図・言葉で説明する場面を意図的に設定し、表現する力を育てる。 ○学習カルテや調査結果を活用し、苦手分野を把握して、個に応じた補充指導や反復学習を行う。</p>			